

「福島原発告訴団」告訴声明

2012年6月11日

今日、私たち1324人の福島県民は、福島地方検察庁に「福島原発事故の責任を問う」告訴を行ないました。

事故により、日常を奪われ、人権を踏みにじられた者たちが力をひとつに合わせ、怒りの声を上げました。

告訴へと一歩踏み出すことはとても勇気のいることでした。
人を罪に問うことは、私たち自身の生き方を問うことでもありました。

しかし、この意味は深いと思うのです。

- ・この国に生きるひとりひとりが大切にされず、だれかの犠牲を強いる社会を問うこと
- ・事故により分断され、引き裂かれた私たちが再びつながり、そして輪をひろげること
- ・傷つき、絶望の中にある被害者が力と尊厳を取り戻すこと

それが、子どもたち、若い人々への責任を果たすことだと思うのです。

声を出せない人々や生き物たちと共に在りながら、世界を変えるのは私たちひとりひとり。

決してバラバラにされず、つながりあうことを力とし、怯むことなくこの事故の責任を問い続けていきます。

「福島原発告訴団」告訴人一同